

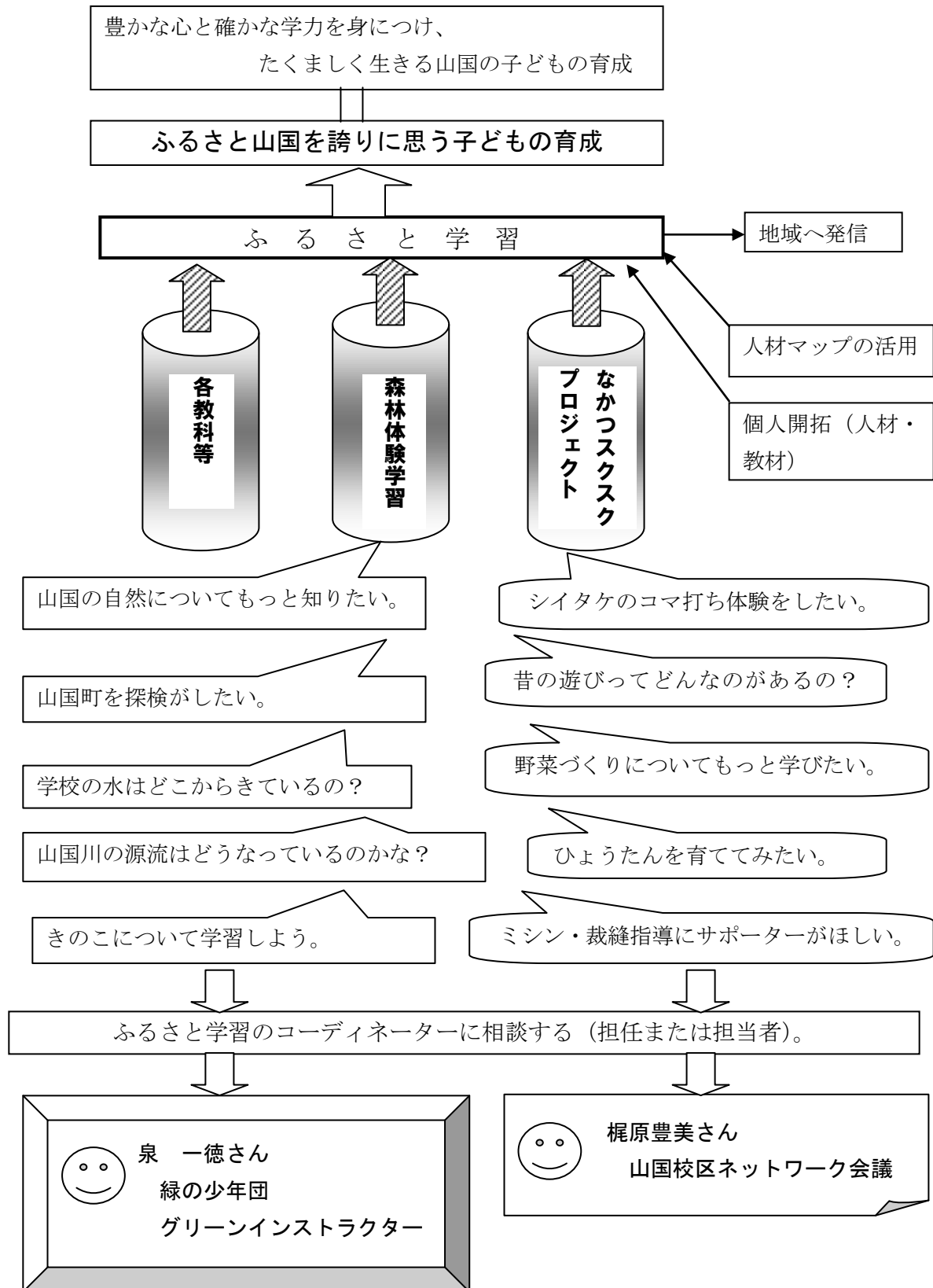
ふるさと学習についての基本構想

2016. 4. 8

地域協育担当

《構想図》

〈学校教育目標〉



- 地域協育担当の方で、二人のコーディネーターに大まかな年間計画を話しておくので、実施の前に各担任とコーディネーターと綿密な打ち合わせをする。その際、活動の目標をしっかりと伝えておくことが大切だ。
- 子どもに活動に対する意識を持たせるため、事前事後の指導をしっかりとさせる。できれば、活動と活動のつながりを持たせたり、活動後のまとめをしっかりとさせたりすると効果的だ。
- 活動を教育課程に位置づける。(別紙、活動計画表)

〈森林体験学習の系統的な目標〉

森林体験学習のカリキュラム (系統表)

ねらい 各学年の主な活動	
低学年	森林体験を通して、森林に興味をもったり、親しみをもったりする。 1年 森林の中で遊ぶ (例) シイタケのコマ打ち、山遊び・川遊び 2年 森林に親しむ (例) シイタケ狩り・郷土料理、秋をウォッチング
中学年	森林体験を通して、地域(山国)の自然の特性や森林のはたらきについて理解を深める。 3年 地域探検 (例) 校区探検、裏山探検 4年 水に関する学習、砂防、自然環境保全 (例) 森林のはたらき、干潟の観察、山国川の源流をもとめて
高学年	海と山のつながりについて、体験学習を通して考え、豊かな海をささえている森林の役割や環境保全について考える。 5年 山-川-海のつながりについて学ぶ (例) 森林体験キャンプ、 6年 国土(環境)の保全→どんぐりの植林 (例) きのこの学習、山国の自然と史跡めぐり、森林体験キャンプ、ブチサンショウウオの森を取り戻そう(自然との共生を考える)

※ 2016年度の教育課程を作成・実施の際、生活科・総合的な学習・社会科等の学習時間を中心に事前・事中・事後の学習をしっかりと行い、各学年の学習内容との関連をもたせるようにする。

〈なかつスクスプロジェクト〉

- しいたけ(低学年)・ひょうたん(中学年)・かかし(高学年)は本年度も外せない活動として位置づける。
- 活動に追われてしまわないようにし、それぞれの活動で、目的意識を持って取り組ませる。→子どもの思いや意見を聞いた上での計画の作成も必要。